

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	理工学研究科
大項目	9 教育研究等環境 (研究科)
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント(TA)・リサーチ・アシスタント(RA)・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教育研究支援体制の整備を行う。	→ティーチング・アシスタント、リサーチ・アシスタント、技術スタッフおよび任期制教員の数。	B	B	B	B	B
2. 教員の研究時間を確保する。	→教員1人当たりの委員会数。	C	C	C	C	C
3. 理工学研究科と関連する倫理規定について啓発活動を行う。	→倫理講習会の開催数。	A	A	A	A	A
4. セミナーが適切な人数で行える施設を確保する。	→セミナーに使える教室数。	C	C	C	C	C

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 教育支援体制整備のため、ティーチング・アシスタントとリサーチ・アシスタント、および任期制教員の増員をおこなうよう取り組んできた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か ティーチング・アシスタントとリサーチ・アシスタント数は十分とはいえない。また、任期制教員数は、英語のみによる修士コースの開設に伴い、2012年に2名増員された。技術スタッフ数の増減はなかった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 新学科の開設に合わせ、新学科の一部と既存学科の一部で任期制教員を増員する。	☆
		その他	☆

目標2	C	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 1年間に開催される委員会数と各委員数をもとに、教員一人あたりの委員会出席数を算出するなどし、教員が教育・研究以外に用いる時間をモニターしてきた。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 委員会出席数のモニターを続けたが、委員会数の抑制はあまりできなかった。また新学科増設などの要因のため、委員会が増加した。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 任期制教員の増員を予定している。これによって、学生の研究指導にあたる教員数を増やすことができ、全体として教員の研究専念時間の増加を見込んでいる。</p> <p>その他</p>	☆
目標3	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 理工学部において、人権、障がい者、倫理等に関する研修会を毎年1回開催している。また動物実験、ヒトゲノム、遺伝子解析研究に関する安全委員会があり、年に1回講習会を開催している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 人権や障がい者教育に対する考えを教員間で共有できるようになった。また、生命実験に関して、研究者に安全意識を促すことができた。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後引き続き維持していく。</p> <p>その他</p>	☆
目標4	C	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2009年度には、既存の空きスペースを利用してセミナー室を増設した。また、2010年度には学生実験室の改修により、セミナー室を増設した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 既存の建物の一部を改修することによってセミナー室を確保してきたが、学生数・教員数の増加に伴いセミナー室は依然として不足している。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 新学科開設に合わせ新棟を建設中であり、そこにセミナー室を4部屋確保する予定である。</p> <p>その他</p>	☆
備考			☆